

数学

京都大学 [文系] (前期)

<全体分析>

試験時間	120 分	解答問題数	5 題
------	-------	-------	-----

解答形式
記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・**やや増加**・増加)
難易 (易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

近年、毎年ではないが独立小問が出題されている。(今年は**1**)
昨年に引き続き思考力、論証力を問う問題が出題されているが、本年は計算力にも比重がおかれている。

その他トピックス

文**2**と理**2**、文**1**問1と理**3**(1)が共通。**3**に誘導の小問がある。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1 問1	確率	数学A	n 個のさいころの目の積が 5 で割り切れる確率を求める。	易
問2	指数関数	数学II	分母に 3 乗根の記号が含まれる式を有理化する。	標準
2	ベクトル	数学B	空間内の 2 直線が共有点をもつ条件から、線分比を求める。	標準
3	三角関数	数学II	半径 1 の円に内接する正五角形の一辺の長さとして 1.15 を比較する。	やや難
4	数列	数学B	和と一般項の関係から、数列の一般項を求める。	標準
5	積分法	数学II	定積分と整式 $f(x)$ の関係式から $f(x)$ を求める。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

頻出の解法を身につけた上で、作業をそつなくこなす力を養うこと。さらに問題の構造を把握して方針を立てる力、論理的に考える力、説得力のある解答を書く力を養うこと。普段の演習においても、小問を削除した問題で練習すること、論証や記述力を確認するための添削指導を受けることは非常に有効である。